

野沢温泉村学生派遣プログラム2017 参加者によるふりかえりを実施

今年度のプログラムの締めくくりとして、参加者によるワークショップ形式の活動ふりかえりを実施した。プログラムに参加した感想から、活動の成果、楽しかったことやつらかったことなどについて自由な意見交換を行い、参加者が自身の成長を感じる場とするとともに、プログラムの改善点についてもヒアリングを行うことで、今後、大学が企画する学生を主体とした地域連携プログラムに活かしていくこととした。

なお、今年度のプログラムは、昨年度の継続テーマであったことから、2016年度の参加者全員にも出席を呼び掛けた。

日 時 2017年12月14日(木) 17:30~19:30

場 所 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン2階会議室

参加者 学生6名、引率教職員3名

高野 葉月、才木 希、大野 未希(2016年度参加者)

堀田 葉奈、坂本 祐大、山内 愛(2017年度参加者)

小池 保夫、柳 光弘、小堀 良樹(引率者)

【テーマ】

- ① なぜプログラムに参加したのか。参加した結果、成長したこと。
- ② 楽しかったこと、辛かったこと。
- ③ 参加する前にプログラムに期待していたこと。参加した結果、期待どおりだったこと。改善してほしいこと。

【ワークショップの様子】



↑プログラムを通じて磨かれたグループワークのスキルとチームワークで白熱する議論↑



話し合いの結果を模造紙にまとめて報告



ワークショップ後の集合写真

【ワークショップの結果】

成果報告を終えての達成感や、社会人との深い関わりが自身の成長につながったという感想のほか、様々なアイデアや意見をまとめる力、リーダーシップ力など、日頃の授業だけでは身に付かないことを学ぶことができたという感想が挙げられた。一方で、提案をまとめていく作業では、各自が様々な価値観を持っており、グループ内で方向性を整理する過程で苦労した様子だった。

プログラム全体への意見として、目標や参加者への期待（学生の学びが主なのか、実現性のある提案が求められているのかなど）を明確にしてほしいことや、複数年にわたって同テーマを考える場合には、過年度の参加者の役割を明確にした方がよいことなどが挙げられた。

★学生の意見一覧★

① プログラムの参加理由ときっかけなど

なぜ参加したのか

- ・所属している学科と、プログラムのテーマの関連が深かったから。
- ・専門性が求められているテーマではないので参加しやすそうだったから。
- ・地方の活性化に関心があった。
- ・実家が野沢温泉村だった。
- ・参加費が安かったから。

プログラムに気づいたきっかけは？

- ・学内の掲示板に掲出されたポスターと Oh-o Meiji（学内の情報発信ウェブサイト）のお知らせ。

② 参加した感想

楽しかったこと

- ・村の散策（温泉、食事、ジップラインなど）
- ・湯澤神社灯籠祭り
- ・懇親会を通じて、参加者や村役場の皆さんと交流を深めることができた。
- ・村との連携プログラムでなければ、行けないところに行くことができた。
- ・村役場をはじめとして、連携プログラムでなければ関わることのできない組織や団体の話を聴くことができた。
- ・今年度は継続テーマだったので、昨年度の参加者との交流がうまれた。
- ・達成感を得られた。

つらかったこと

- ・報告書提出の時期が、学校行事や私生活の用事と重なって多忙だった。
- ・昨年度参加者との間に、経験や知識の差があった。
- ・各自が様々な考えを持つ中で、班をまとめること。

③ 参加した結果、成長したこと

- ・発表のスキルを高めることができた。（パワーポイントの使い方、まとめ方、話し方など）
- ・自分の意見を発言する勇気を学んだ。
- ・グループワークの難しさを学んだ。
- ・普段の授業ではあまり経験しないフィールドワークを経験した。
- ・野沢温泉村関係者や大学教員など、社会人と深い関わりをもつことができた。
- ・リーダーシップを身につけた。

④ プログラム全体についての意見

より多くの人にプログラムを知ってもらうには、どうすればよいか？

- ・地域・公共性の高いグループ（学科や授業など）に直接アプローチする。
- ・1年生へ積極的に周知する。（早いうちに経験することで視野や関心が広がる）
- ・このプログラムが村民に認知されているのか不安がある。報告書をもっと多くの人に読んでほしい。

プログラムの目標設定について

（感じたこと）

- ・地域の人の価値を重視するべきなのか、自分たちの自由な発想で考えるべきなのか悩んだ。
- ・商品提案にどこまでこだわるべきだったのか。
- ・提案の実現性を感じないとモチベーションを維持できない。

（村と大学に考えてほしいこと）

- ・学生たちは、村のためになる提案を行うべきなのか。
 - これまで以上に具体的かつ現実的な提案を目指す。
 - 村にも実現に向けた本格的な検討をお願いする。
- ・学生たちは、自分たちの学びを主の目的とすべきなのか。
 - 枠組みにとらわれない幅広い提案が可能。
- ・テーマ設定や参加者に期待することは明確にしてほしい。

チーム編成について

- ・チーム全体が一つの方向性を持っているわけではなく、各自がそれぞれの関心ごとを持っていた。
- ・チームごとのテーマ設定が曖昧になってしまった。
- ・ミーティングの機会が少なかったことにより、十分な意見交換ができなかった。
 - ミーティングの必要性を参加者に伝え、大学が設定する学内研修の機会を増やす。
- ・過年度の参加者の携わり方を明確にした方が良い。
 - 例えば、現地の雰囲気や効果的な取材先など、いつでも尋ねることができるアドバイザーなど。

以 上